No.1 スノーモンスターと凍った森

蔵王の晴れた日の、スキーのコンディションが最高のときには、山のロープウェイとスキーコースには地元の人たちや旅行者で溢れる。ベースセンタージュピアーから地蔵山頂駅まで、年齢や技術レベルの異なる多くのスキーヤーやボーダーがいたるところで見られる。しかし、太陽が上空に登り始めるころは、コースにはスキージャケットを纏いスキーズボンに身を固めたスキーヤーの姿はない。訪問者は南斜面にたくさん見られる聳え立った威圧的な白い姿…蔵王のスノーモンスターを眺め静かなひと時を過ごすことができる。

スノーモンスター（またはアイスモンスター）は日本語で「樹氷」と呼ばれている。この言葉は「氷霜で覆われた樹木」を意味するが、近よったり、その間を歩いたり、スキーをしたりしても、何の害もないことに気づくだろう。彼らは美しい異世界の風景の中を力強く踏みしめているようだ。 樹氷はシベリアの砂漠の乾燥した風によって変形されたアオモリトドマツの木である。この風は日本海を横切って広がり、朝日山脈の頂上を吹き抜け、白鷹丘陵と山形盆地を通過して、氷点下でも凍らない過冷却の雨滴を放出する。これらの飛沫が山の雪と溶けあい、蔵王のスノーモンスターが生まれる。スノーモンスターの姿はそれほど長く続かない。

地球規模の気候変動のためにサイズと数が縮少しているが、それでも注目に値する光景である。

1月下旬から3月中旬までが樹氷が最も成長する時期である。

斜面のさらに下に位置する霜に覆われた森（霧氷地帯）は、風に吹き飛ばされた氷でいっぱいの銀の木立だ。 この銀の霜は、凝縮した水蒸気が凍結空気にさらされ形成されるのである。 草や葉の茎の上の露はゆっくりと凍結する。 つまり、露は半透明の氷になり、銀細工のように光を屈折させる。 森の中の樹木は氷晶に包まれ姿を変え、白光した大きな繭の花園のように、氷霜の森はスノーモンスターが最も印象的になるのと同じ頃に最も絵になる。 どちらもメインの樹氷原コースから簡単にアクセスでき、どのレベルのスキーヤーも行くことが可能である。 山にはいくつかのロープウェイが整備されており、ここからの眺めは驚嘆にあたいする。 凍った森とスノーモンスター両方の状態は気象条件によって変わり、見物に最もよい時間帯は朝の寒い時。